

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-132	A-30C	17-028	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Parental smoking, maternal alcohol, coffee and tea consumption and the risk of childhood brain tumours: the ESTELLE and ESCALE studies (SFCE, France). 両親の喫煙および母親のアルコール・コーヒー・紅茶摂取と小児性脳腫瘍との関連 : the ESTELLE and ESCALE studies (SFCE, France).			
執筆者			
Bailey HD, Lacour B, Guerrini-Rousseau L, Bertozzi AI, Leblond P, Faure-Contier C, Pellier I, Freycon C, Doz F, Puget S, Ducassou S, Orsi L, Clavel J.			
掲載誌			
Cancer Causes Control. 2017 Jul;28(7):719-732. doi: 10.1007/s10552-017-0900-4. Epub 2017 May 5.			
キーワード			PMID
アルコール、脳腫瘍、コーヒー、喫煙、紅茶			28477209
要 旨			
目的：			
妊娠中の両親の喫煙および母親のアルコール、コーヒー、紅茶摂取と小児性脳腫瘍のリスクとの関連性を検討した。			
方法：			
2003-2004年と2010-2011年にそれぞれ実施されたフランスの一般住民を対象とした症例対照研究を突合した。対象者は、フランスの小児がん登録から抽出した小児性脳腫瘍患者510名（15歳未満）と性・年齢をマッチングさせた3,102名（対照者）とした。母親への電話インタビューを通して、妊娠中の両親の喫煙状況、喫煙本数、アルコール（ワイン、ビール・サイダー、スピリッツ）、コーヒーおよび紅茶の摂取頻度について調査した。多変量ロジスティック回帰分析により、喫煙、アルコール、コーヒー、紅茶の摂取による小児性脳腫瘍のオッズ比（OR）および95%信頼区間（95%CI）を算出した。			
結果：			
妊娠中における母親の喫煙割合は患者群20.8%、対照群19.8%であり、喫煙と小児性脳腫瘍リスクとは関連しなかった（OR 1.20, 95%CI 0.79-1.82）。また、母親のアルコール、コーヒー、紅茶の摂取、およびそれぞれの組み合わせと小児性脳腫瘍リスクとの関連は認めなかった。父親の喫煙割合は患者群47.6%、対照群43.8%であり、喫煙者の小児性脳腫瘍ORは1.25（95%CI 1.03-1.52）、1日10本あたりのORは1.09（95%CI 0.99-1.19）であった。5歳未満の子供（OR 1.52, 95%CI: 1.14-2.02）および星状細胞腫（OR 1.86, 95%CI 1.26-2.74）において、父親の喫煙と小児性脳腫瘍との間に強い関連を認めた。一方、両親とも喫煙者である場合の相乗効果は認めなかった。			
結論：			
父親の喫煙と小児性脳腫瘍、特に星状細胞腫との間に関連がみられたが、他の集団においても同様の結果が得られるか、さらなる検証が必要である。			